

JCNE助成金活用セミナー

「助成事業のまとめ方」

(公財) 日本非営利組織評価センター 山田泰久
Twitter : @canpan2009
<http://www.facebook.com/yamadamay>

2023年1月Ver.01

プロフィール：山田泰久（やまだやすひさ）

公益財団法人日本非営利組織評価センター 業務執行理事

寄付月間 推進委員会委員／共同事務局事務局長

一般社団法人全国コミュニティ財団協会 監事

イシス編集学校（松岡正剛氏主宰） 師範代

群馬県高崎市出身、慶應義塾大学文学部卒（フランス文学専攻）。

1996年日本財団に入会。2009年から公益コミュニティサイト「CANPAN」の担当になり、NPO×情報発信、助成金、IT活用、寄付をテーマに様々なNPO支援の活動に取り組む。

2016年4月、（一財）非営利組織評価センター（JCNE）の設立とともに、業務執行理事に就任し、非営利組織の組織評価・認証制度の普及にも取り組んでいる。

※2022年11月に公益財団法人化＆名称変更。

twitter: @canpan2009

Facebook <http://www.facebook.com/yamadamay>

note <https://note.com/yasuhisayamada>

CANPAN講座 <http://blog.canpan.info/c-koza/>

JCNE・NPOフォーラム <http://blog.canpan.info/cpforum/>

情報発信のこともやっています。

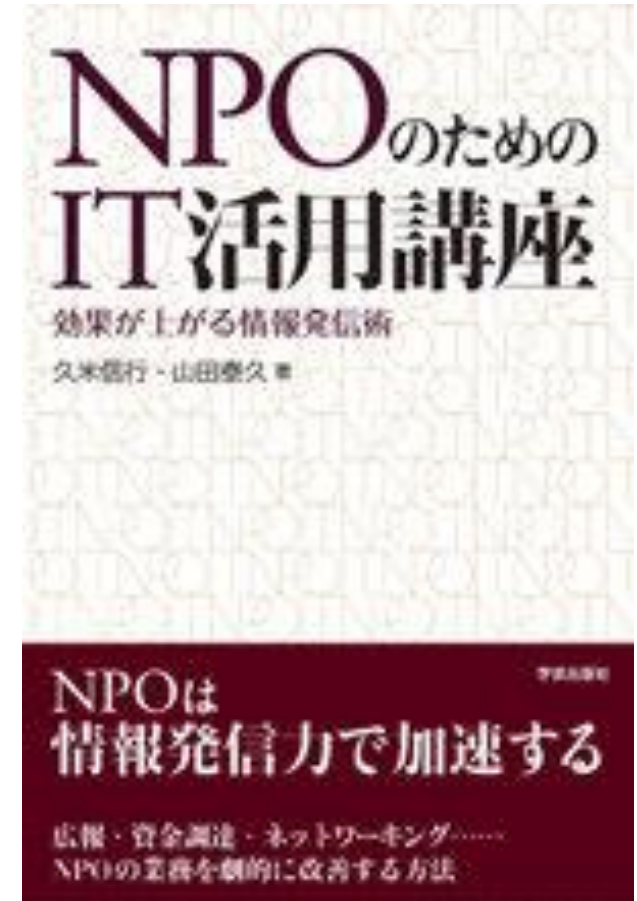
セミナーだけでは伝えきれないことを本にまとめました。

NPOのためのIT活用講座
～効果が上がる情報発信術
久米 信行 著 山田 泰久 著
学芸出版社
四六判・224頁・定価 本体1800円＋税



■■ 内容紹介 ■■

「お金が足りない」「忙しい」「どんな情報を発信していいかわからない」…そんなアナタに、無駄な手間とコストをかけず、個人・団体としての活用を使い分け、広報、資金調達、マーケティング、キーパーソンとのネットワーキングなど、NPOの業務に劇的な効果をもたらす方法を、二人の達人が豊富な事例をもとにお伝えします。



日本非営利組織評価センター（JCNE）

2016年4月1日、全国の非営利組織の評価を行うことで信頼できる組織の情報を広く社会に発信し、支援環境の充実に寄与するために非営利組織評価センター（JCNE）を設立しました。

チャリティの歴史が長い諸外国では、第三者である評価機関が寄付等を受けて活動する団体の運営状況を評価認証し、結果を公開しています。日本でも同様の非営利組織の評価が必要な時期になりました。

この非営利組織評価センターは民間セクターの手で作りたいという願いから、多くの団体に設立のご支援をいただきました。株式会社をはじめ助成財団、NPO、一般法人といった多様な設立発起人からのご出捐。そして賛同パートナーである助成財団からの応援を得ています。さらに5年後の自立を目指し事業運営には日本財団の助成をいただいています。

組織マネジメントに関する第三者評価



グッドガバナンス認証

JCNEの独自の評価基準に基づき、専門の評価員が団体を訪問し、ヒアリングや書類確認によって組織運営の状況进行评估しています。その評価結果をもとに、非営利組織の中でも組織運営やガバナンスが一定水準以上のレベルの団体を認証しています。グッドガバナンス認証団体は外からは見えにくい組織内部の状況を第三者機関に開示して、信頼性・透明性の向上に努めている団体です。また、課題がある場合も見直し、改善をしていく姿勢や意欲のある団体でもあります。寄付をしたい、ボランティアとして参加したいという市民や企業の方が、期待をかけて支援ができる団体として紹介しているのが「グッドガバナンス認証団体」です。

https://jcne.or.jp/evaluation/good_governance/



グッドガバナンス認証

ベーシックガバナンスチェック

JCNEの独自の評価基準に基づき、団体運営の基本についてセルフチェックと提出書類をもとに簡易的に評価をしています。評価結果は「ベーシックガバナンスチェックリスト」で公開され、随時更新されます。継続的に第三者評価を受け、情報開示に積極的な透明性の高い団体として、JCNEは掲載団体への支援を推奨しています。

ベーシック評価基準23項目に基づく簡易的な組織評価です。

<https://jcne.or.jp/evaluation/outline/>

欲しい未来へ、 寄付を贈ろう。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



一年の終わりに、考えたいのは未来のこと。

もっと楽しい未来。もっと優しい未来。

もっと平和な未来。もっと多様性が認められる未来。

そんな未来を手にするために、あなたの気持ちを寄付にしよう。

寄付は意思、寄付は投資、寄付は応援、寄付は願い。

寄付で未来は変えられるのです。

だから、「Giving December」。

一年の終わりに、未来を考え寄付をする。

そんな習慣を、はじめたいと思います。

欲しい未来を叶えてくれるさまざまな取り組みに、

あなたの想いを託しましょう。

さあ、年の終わりに、新しい「寄付」がはじまります。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



寄付月間～Giving December～について

寄付月間とは

寄付の受け手側が寄付者に感謝し、また寄付者への報告内容を改善するきっかけとなり、そして多くの人が寄付の大切さと役割について考えることや、寄付に関心をよせ、行動をするきっかけともなる月間を制定する。

推進委員会

委員長 小宮山宏 三菱総研理事長/元東京大学総長

共同事務局長 山田泰久 一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事

民間非営利組織、企業、行政、国際機関などで寄付に関連する取り組みをしている全国代表的な機関の代表者が集まり、35名の推進委員会を構成 各法人の有志による共同事務局を設置して、寄付月間の統一ロゴ作成や各方面との連携による全国的周知による啓発活動、イベント開催や賛同パートナー（無料）の拡大などを行います

その他

・社会課題の解決のための寄付の促進が本委員会の設立の背景にあるが、寄付の定義は、寄付者個々人によって違いがあり、多様性を許容する観点から、寄付の定義について委員会としては明確な排他性をもたない。

・本委員会、寄付月間参加は、各主体の自発性に基づくものであり、何ら強制的な要素を含まない。また、特定団体や特定課題への寄付を要請するものではなく、委員会としての政策提言を目指すものではない。



いますぐ体験！



編集力チェック 無料

編集力とはどんなもの？ イシス編集学校の稽古を無料で体験できます。ウェブから申し込むと「お題」がメールで送られてきて、回答を返信すると、師範代から指南コメントが届きます。

▶ <http://es.isis.ne.jp/web.html>



ISISエディットツアー

ブックサロンスペース「本楼」ほかユニークな書棚空間を巡りながら、編集的な体験を楽しむツアーです。映像や座談、ワークショップを交え、アタマもココロもやわらかくする2時間のプログラムで、「編集」のエッセンスを体感。イシス編集学校の編集稽古も体験できます。

● 毎月開催、日程限定。 ● Ticket: 1,500円(税別)

▶ <http://es.isis.ne.jp/edittour.html>



詳しくはイシス編集学校ウェブサイトをご覧ください。 <http://es.isis.ne.jp>

資料請求・お問合せ・お申込は

イシス編集学校 学林局

front_es@eel.co.jp

よい団体とは、
よい活動とよい情報発信を
している団体である。

助成金も同じ

なぜ、NPOは情報発信するのか？

そもそも、NPOやその活動は外から見てわからない存在である。

NPOの活動は、現場にいないとわからない。

活動の可視化



活動の中の感動を

活動の価値化

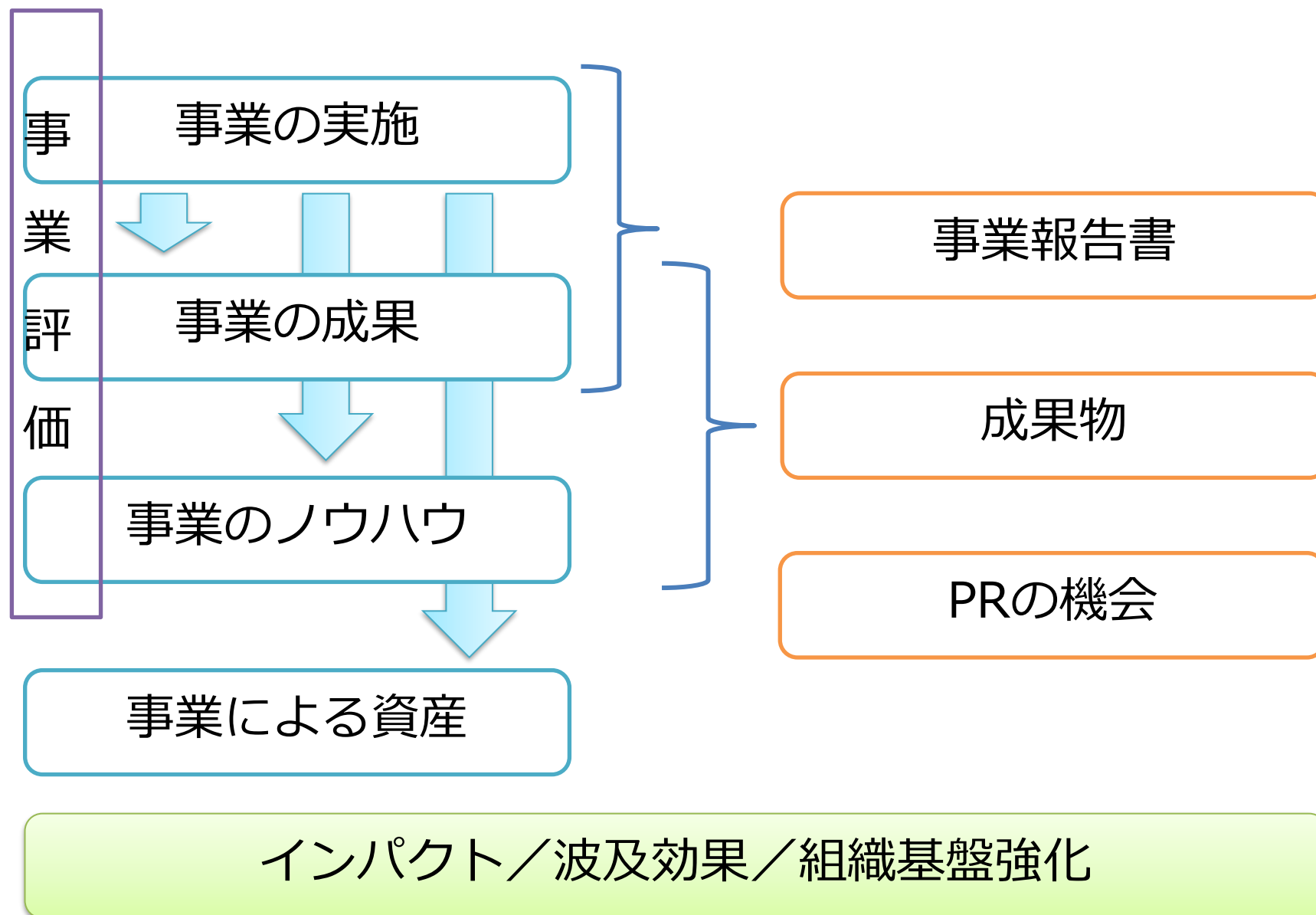


価値にして伝える

助成金の申請書も同じ

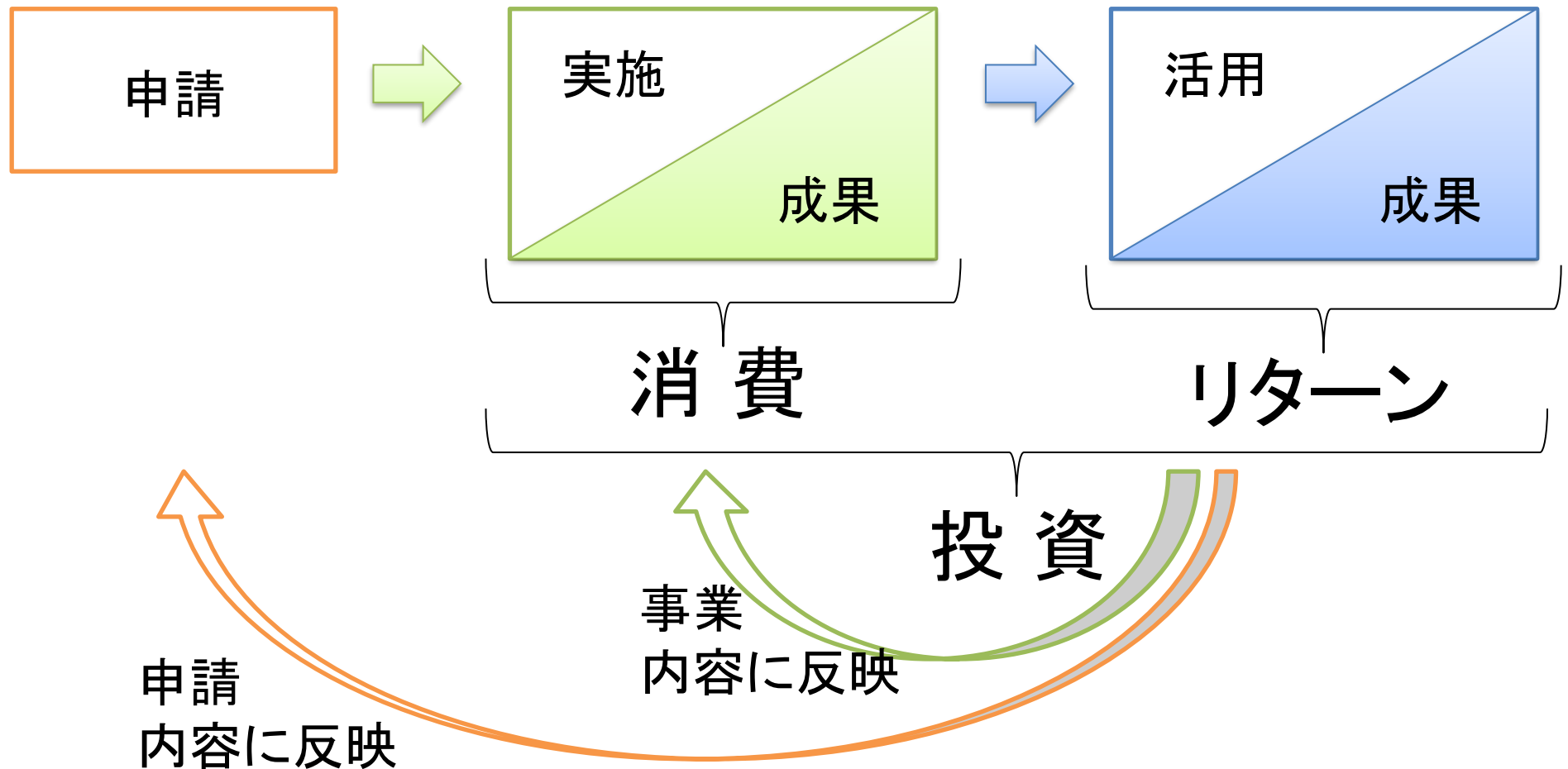
助成金の報告書も同じ

助成事業のまとめ方

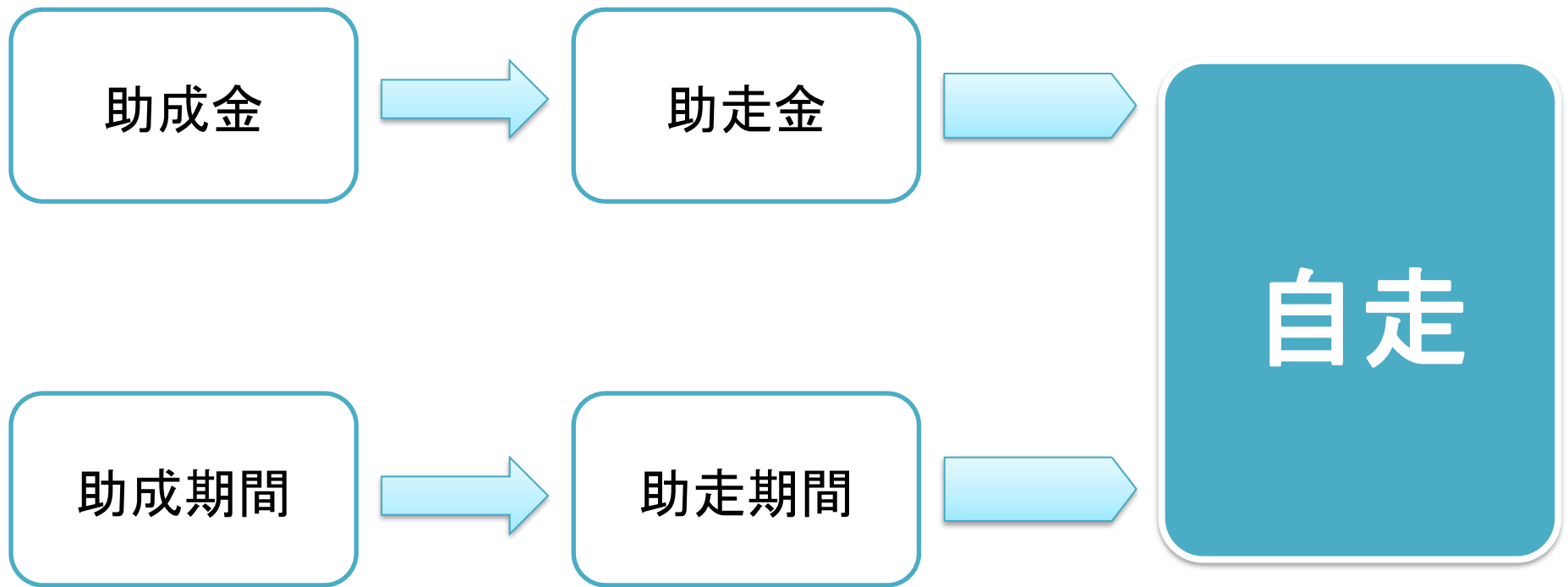


助成金の活用

社会課題の解決の一助になることと、持続的に事業や組織を発展させていくことを目指して、助成金＋様々なリソースを投入すること



助成金のイメージ・チェンジ



助走というプロセスで「力」を蓄え、大きくジャンプ(成果)する。
その後も自走できる実力をつける。

事業評価で成果と改善を目指す

①状況分析

事業開始前の地域の状況と受益者の状況

②目標設定

行為目標: 具体的な実施内容、スケジュールやその事業のステップごとの目標

成果目標: その事業全体を通じて達成したい状況や成果

③振り返りとまとめ

活動→結果→変化→成果→評価→改善

報告や成果のまとめ方

行為目標：具体的な実施内容、スケジュール

その事業のステップごとの目標

成果目標：その事業全体を通じて達成したい状況や成果

【とりまとめ→自己分析→自己評価→未来予測】

①結果報告（行為目標）

- ・活動実績のまとめ
- ・アンケート結果のまとめ
- ・事業のプロセスの分析（目標と実績のギャップ）

②成果報告（成果目標）

- ・事業による変化の分析（目標と変化のギャップ）
- ・結果から成果への分析
- ・ヒアリングの実施とまとめ
- ・自己完結の分析・評価

③付加価値情報

- ・波及効果の分析、事業の改善策とネクスト・ステップの作成
- ・ノウハウ集のまとめ

助成事業による良い効果

【団体内への影響】

- ① 社会実験(仮説)の実証
- ② 事業規模・財政規模の拡大
- ③ 会費や寄付の増加
- ④ 担い手や協力者の増加
- ⑤ 担い手の力量(質)向上
- ⑥ 団体の認知度や信頼度の向上
- ⑦ 他の助成金の獲得
- ⑧ 行政との関係構築、委員、講師、協働、業務委託、指定管理等
- ⑨ 新たな支援者の獲得

【社会や地域、対象者への影響】

- ① 社会のニーズ・課題の周知啓発
- ② 事業の対象者・受益者のエンパワメントや社会参加
- ③ 市民の社会貢献の機会提供
- ④ 地域の協力体制の構築、関係作り
- ⑤ ノウハウや情報の共有・発信
- ⑥ 他地域、他団体が同事業を実施
- ⑦ 行政でモデル事業化
- ⑧ 行政で施策化、制度化

【自主財源の構築】 ★次年度以降の自主財源率向上を目指す

- ① ビジネスモデル化
- ② コンサルによる収入
- ③ 知見やノウハウの価格設定と提供
- ④ 他地域展開モデル
- ⑤ 成果物の販売
- ⑥ セミナー・研修会のパッケージ化

自主財源や事業収入化の構築

【方法】

サービス構築
ビジネスモデル構築
寄付モデル構築
協賛事業
コンサルティング
ノウハウ価格設定
他地域展開モデル
成果物の販売
研修パッケージ
講師派遣
協働
補助事業
制度事業
業務委託



【準備】

実証実験
事業の記録
ノウハウの記録
事業の発信
ノウハウ等の成果物報告会の開催
成果の共有



【対象】

参加者・受益者
一般市民(寄付者)
企業(顧客)
企業(寄付者)
行政
教育機関
NPO

助成金による資産作り

助成事業のプロセスを通して、5つの資産を作る

- 【人】 協力者、参加者、人材養成
- 【モノ】 備品、Webサイト、テキスト、施設、設備
- 【仕組み】 低コスト化／事業収入／ノウハウ移転で収益
- 【ネットワーク】 助成機関、行政、他セクター、専門家
- 【ノウハウ】 事業の専門性、組織マネジメント

事業終了後も活用できる資産を作る

まとめ方のポイント その1

①事業報告書

- ・フォーマットの確認
- ・提出期限の確認と作成スケジュールと作業分担
- ★重要視しているポイントの確認

②収支書類と領収書

- ・会計帳簿の入力方法の確認
- ・提出する書類の様式と証憑の確認
- ★対象費目と補助率の確認

③アンケート

- ・事業実施前のアンケート
- ・事業実施後のアンケート
- ★誰に？ アンケートの目的は？
⇒変化、満足度、ノウハウ

まとめ方のポイント その2

④事業成果物(冊子、もしくはWeb上のコンテンツ)

- ・成果物の活用の仕方(無料／有料)
- ・普及の方法

★PRの機会に

→例えば、報告書より「〇〇白書」の方が新聞記事になりやすい

⑤事業報告会、もしくはイベント

- ・成果を広く知らせる
- ・次のステップへ

★メディア掲載を意識する、助成財団関係者の挨拶もしくは登壇

⑥今後を活用できる資産の整理

- ・コンテンツの活用
- ・自己財源化
- ・人材、もしくはネットワーク

まとめ方のポイント その3

⑦事業の振り返り

- ・PDCA
- ・事業評価
- ・社会的インパクト評価

- ・アウトカム(成果)の可視化
- ・インパクト(影響)の言語化
→社会・地域軸／時間軸
- ・事業の改善
- ・社会ニーズの可視化
- ・事業ノウハウの言語化
- ・ロジックモデルのブラッシュアップ
- ・社会的インパクト評価からの切り出し
- ・次の助成金申請の基礎資料

助成金とは・・・

樹木は育成することのない
無数の芽を生み、
根をはり、枝や葉を拡げて
個体と種の保存にはあまりあるほどの
養分を吸収する。

樹木は、この溢れんばかりのの過剰を
使うことも、享受することもなく自然に還すが
動物はこの溢れる養分を、自由に
嬉々としたみずからの運動に使用する。

このように自然は、その初源からの生命の
無限の展開にむけての秩序を奏でている。

物質としての束縛を少しずつ断ちきり、
やがて自らの姿を自由に変えていくのである。

**“デンマーク王子アウグステンブルク公にあてた
美学的なことに関する書簡第27号より一部を抜粋”
フリードリヒ・フォン・シラー**



横浜／ランドマークタワー